

授業科目名	【Gカリキュラム】 情報社会論 ※本年度は開講せず 【EFカリキュラム】 情報社会論 I	選択	開講年次	【G】2 【EF】3	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	専門科目：【G】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・情報）／【EF】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・情報）					
担当形態	単独	【G】教員の免許状取得のための（-・-・-・情報必修）科目 【EF】教員の免許状取得のための（-・-・-・情報必修）科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	高度情報化社会における諸問題			担当者	吉田 一雄	
授業概要	<p>【概要】</p> <p>いわゆる ICT 技術を前提とした高度情報化社会における諸問題を考察することとする。現在の最先端技術とそれをめぐる社会的問題および将来予想される状況について、取り扱われるトピックには粗密があることが予想されるが、受講者と自由に議論していきたい。</p> <p>【到達目標】</p> <p>一つ一つのテーマは、場合によって非常に高度の技術的専門性を必要とするものであるため、情報社会の大きな流れを理解し、よりよく活用していくことができるための素地を築くことが当面の目標であり、次いで、それぞれの関心あるテーマにつき確信を伴った姿勢で取り組んでいくことができれば十分に満足できる成果といえるだろう。</p>					
履修条件	大学の PC の ID を利用可能としておくこと。					
教科書・参考書	<p>【教科書】</p> <p>なし</p> <p>【参考書】</p> <p>なし（随時紹介する）</p>					
授業回数	授業内容					
1	導入、および情報化社会論 I の取り扱い対象		予習：大学 PC ログイン			
			復習：シラバス内容を確認			
2	コンピュータの歴史（1）メインフレームからパソコンまで		予習：コンピュータの歴史に関する文献 1 冊			
			復習：汎用性とは何か確認せよ			
3	コンピュータの歴史（2）インターネット		予習：インターネットの歴史に関する文献 1 冊			
			復習：ネットワークとは何か確認せよ			
4	コンピュータの歴史（3）パソコンからネットワーク・コンピュータ、クラウドへ		予習：クラウドの概念について調べておくこと			
			復習：クラウドの問題点について整理すること			
5	コンピュータの歴史（4）携帯電話の発達史とスマートフォン、さらにウェアラブルへ		予習：スマートフォンとは何か			
			復習：自身のスマートフォンの使用方法に関する反省・改善			
6	IT から ITC へ		予習：IT と ICT の意味について調べておくこと			
			復習：レポート作成準備			
7	情報の共有と、コピーライト（およびコピーレフト）		予習：コピーレフトの意味について調べておくこと			
			復習：レポート作成			
8	放送と通信（地デジの意味）		予習：地デジの意味について調べておくこと			
			復習：今日のラジオ放送の意味を考えてみる			
9	通信の秘密の意味とスパムメール		予習：通信の秘密を保障する法律を調べておくこと			
			復習：外国との通信を保障する根拠は何か			
10	トレイサビリティ		予習：必要性和メリットについて調べておくこと			
			復習：具体的にトレイサブルな商品を見つけてみる			
11	ブロードバンド・インフラの機能		予習：ブロードバンドとは何か調べておくこと			
			復習：自分が利用しているブロードバンドは何か			
12	電子マネーと決済手段		予習：決済手段にはどのようなものがあるか			
			復習：電子マネーの具体例を見つけること			
13	Web2.0 とは何か？（ブログ、ツイッター、SNS など）		予習：いわゆる SNS の利便性を確認すること			
			復習：確認テスト準備			
14	論点整理と、授業内確認テスト		予習：確認テスト準備			
			復習：自己採点			
15	確認テスト講評と、インターネット上の規制		予習：インターネット上での活動を規制する法の種類			
			復習：ネット環境と自分の関わりについて見直す事			
評価方法	シラバスのいずれかの内容についてのレポート 1 本（配点 50 点、5 月末日締め切り）、および授業内確認テスト（配点 50 点）のみを評価対象とする。					
評価基準	高度情報化社会において、何が行われているか理解し、対応できる水準を「S」「A」、場合により対応できる水準を「B」、一般的理解にとどまる水準を「C」、理解が不十分な水準を「D」、全く無理解を「E」とする。また、レポートおよび確認テストが提出されない場合には「F」。					
その他	内容的に非常に多岐にわたるので、理解のためには出席を要する。また社会環境の変化により、シラバス内容の入れ替えがある。					
	※G 別：法【-】法【-】情【-】／EF 別：法【-】法【-】経【-】					